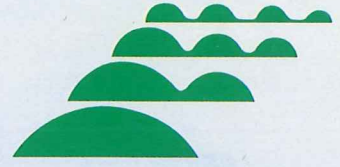


美しいふるさとをいつまでも

砺波広域圏事務組合



クリーンセンターとなみ



豊かな水と緑の自然環境を保全し、清潔で明るく住みよい生活環境を維持することは私たちだれもが念願するところであります。近年、社会経済の発展や、生活様式の多様化に伴い、日常生活から排出される廃棄物は量的増大と質的多様化が進んでおり、これら廃棄物を適正に処理することが行政に課せられた最も重要なことであると存じています。

砺波広域圏事務組合クリーンセンターとなみでは、平成11年度から建設してまいりました最終処分場が完成し平成13年4月より供用開始を行っているところであります。さらにこの度完成した、クリーンセンターとなみ排ガス高度処理施設整備及び灰固化施設整備事業は、ダイオキシン類等の削減対策など環境保全並びに公害防止に万全を期した設備となっております。

今後は、これら施設の円滑な運営と管理によって住みよい環境づくりに寄与できるものと確信しております。

おわりに、本事業の完成にあたり、深いご理解とご協力を賜りました地元の皆様と関係各位に対し心から感謝を申し上げます。ご挨拶といたします。



焼却施設設備概要

建築面積	1,383㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造及び鉄骨ALC板帳 地下1階、地上3階、延床面積2,135㎡
処理能力	70t/日(35t/16h×2基)
主要設備	受入れ供給設備、燃焼設備、給排水設備、 排水処理設備
着工	平成元年7月
竣工	平成3年1月
設計・施工	株式会社タクマ
監理	財団法人 日本環境衛生センター 有限会社 高島設計

粗大ごみ処理施設設備概要

建築面積	1,041㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造及び鉄骨造 地下1階、地上4階、延床面積1,807㎡
処理能力	9t/5h
主要設備	受入れ供給設備、破砕設備、搬送設備、 選別設備、貯留・排出設備、集じん設備、 給排水設備、電気計装設備
着工	平成7年9月
竣工	平成8年9月
設計・施工	東レエンジニアリング株式会社
監理	株式会社中部設計 中外テクノス株式会社

排ガス高度処理施設概要

主要設備	二次燃焼設備、燃焼ガス冷却設備、 排ガス処理設備、通風設備、灰出し設備、 電気設備、計装制御設備
着工	平成12年5月
竣工	平成14年7月
設計・施工	三菱マテリアル株式会社
計画・監理	株式会社建設工学研究社

一般廃棄物最終処分場

敷地面積	77,000㎡
埋立容量	57,000㎡
埋立方式	準好気性埋立
処理能力	80㎡/日
主要設備	浸出水処理設備、埋立処分場
着工	平成11年8月
竣工	平成13年3月
施工	共和化工株式会社
	佐藤工業、梅本建設工業、成和建設共同企業体
設計・監理	株式会社建設工学研究社

灰固形化施設概要

建築面積	50㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造及び鉄骨ALC板帳 地下4階、延床面積200㎡
処理能力	2.72t/日
主要設備	ダスト安定化設備、電気計装設備
着工	平成12年5月
竣工	平成14年3月
設計・施工	三菱マテリアル株式会社
計画・監理	株式会社建設工学研究社

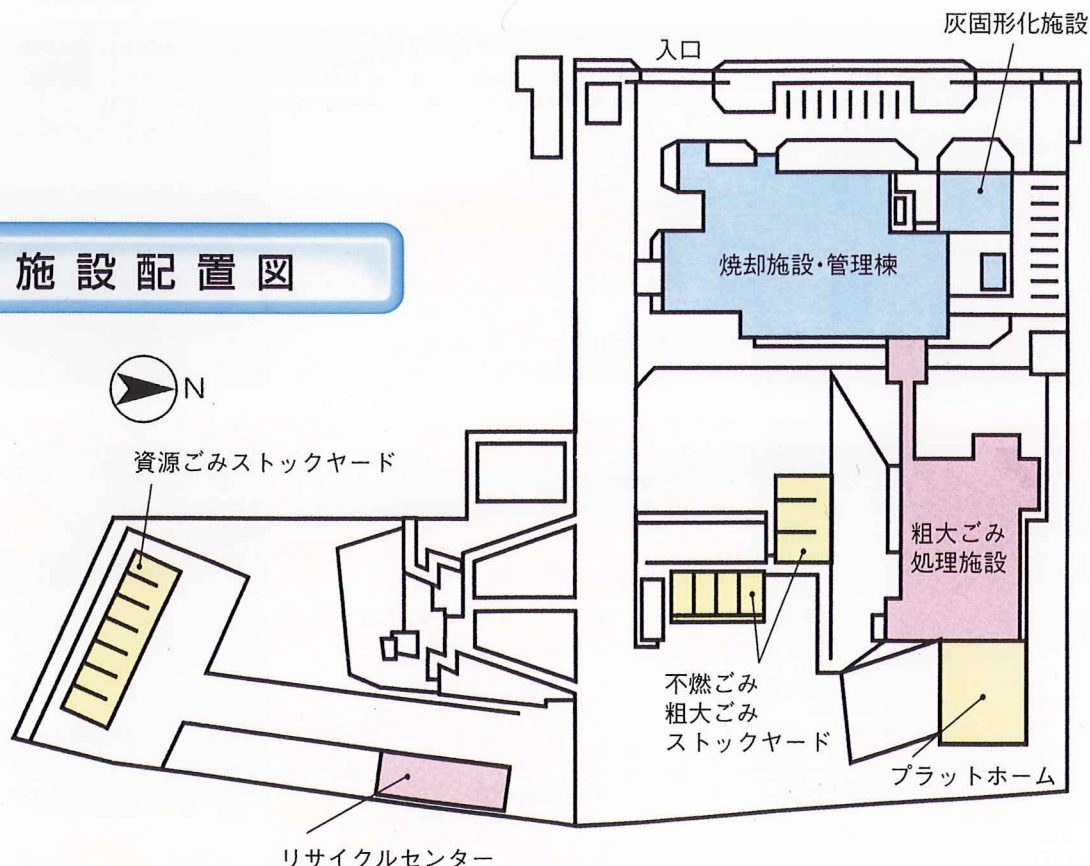
資源ごみストックヤード設備概要

敷地面積	243㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造
着工	平成4年5月
竣工	平成4年6月
施工	市堰建工株式会社
設計・施工監理	有限会社舞設計事務所

リサイクルセンター施設概要

敷地面積	165㎡
建物構造	軽量鉄骨造、融雪型、 外壁カラー鉄板イラスト入り
竣工	平成5年5月

施設配置図



焼却施設

厚生年金・国民年金積立金還元融資施設



ごみピット

プラットホームから投入されたごみは、燃焼しやすくなるようクレーン操作でかき混ぜられます。そしてごみの量を確認しながら、適量ずつごみ投入ホッパへ供給します。

階段式高速燃焼ストーカ

乾燥・燃焼・後燃焼の3つに分かれたストーカは、ごみを効率よく未燃分が残らないよう焼却します。



中央監視装置

施設内のさまざまな器機の状態を監視し、コンピュータにてコントロールします。



焼却炉

炉内へ入ったごみは、3つのストーカでそれぞれ乾燥し燃焼して灰になります。ごみはいったん燃え始めると、燃焼熱で新しいごみを乾燥させ自然し、連続的に焼却されます。



炉内



ろ過式集じん器

焼却炉より発生する燃焼排ガス中のダストの除去及び有害物質を除去します。

ダスト安定化設備

ろ過式集じん器等で発生したダストをキレート処理により安定化する設備です。



消石灰/活性炭吹込装置

有害物質を薬品の投入により除去します。

処理物バンカ

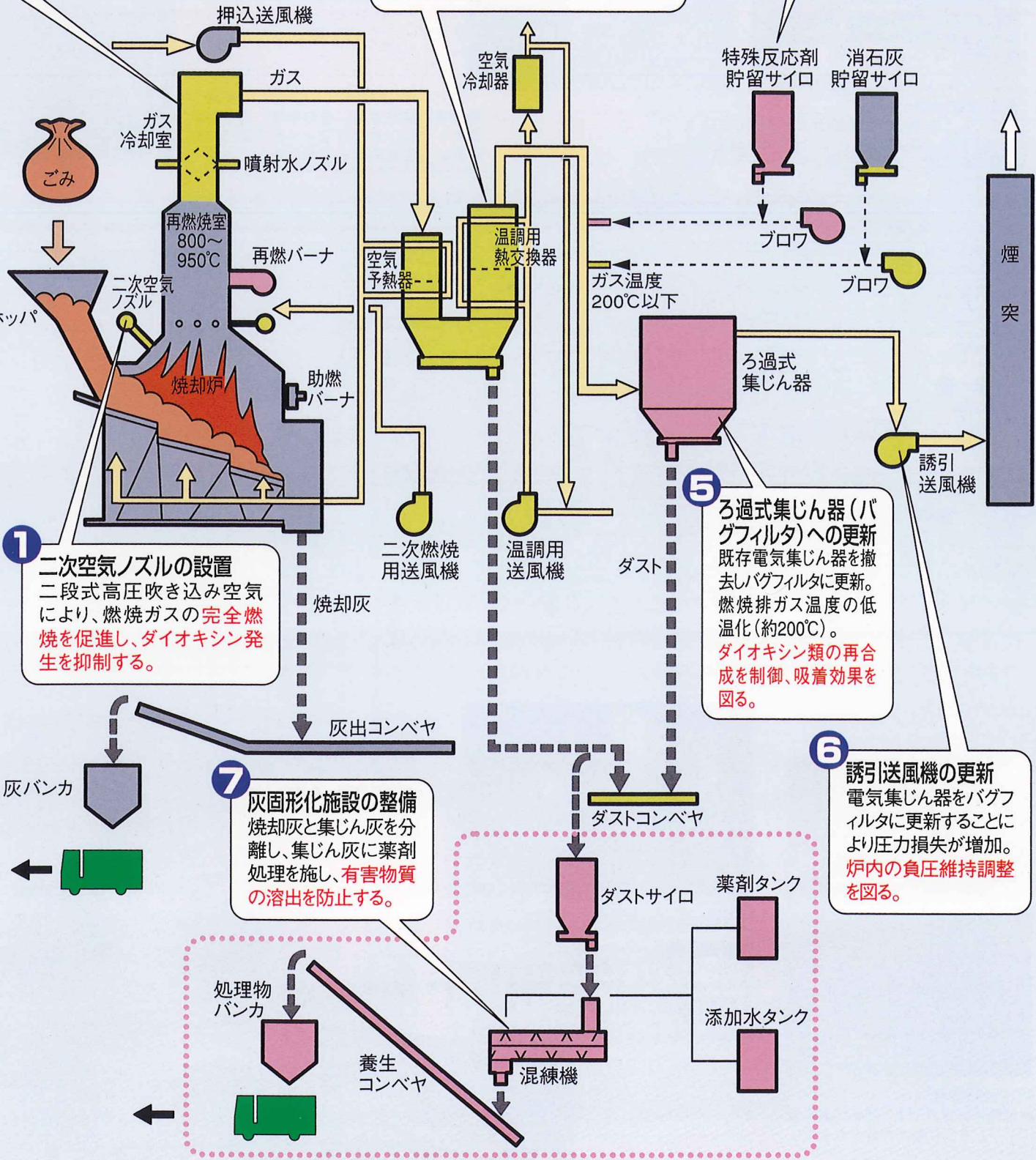
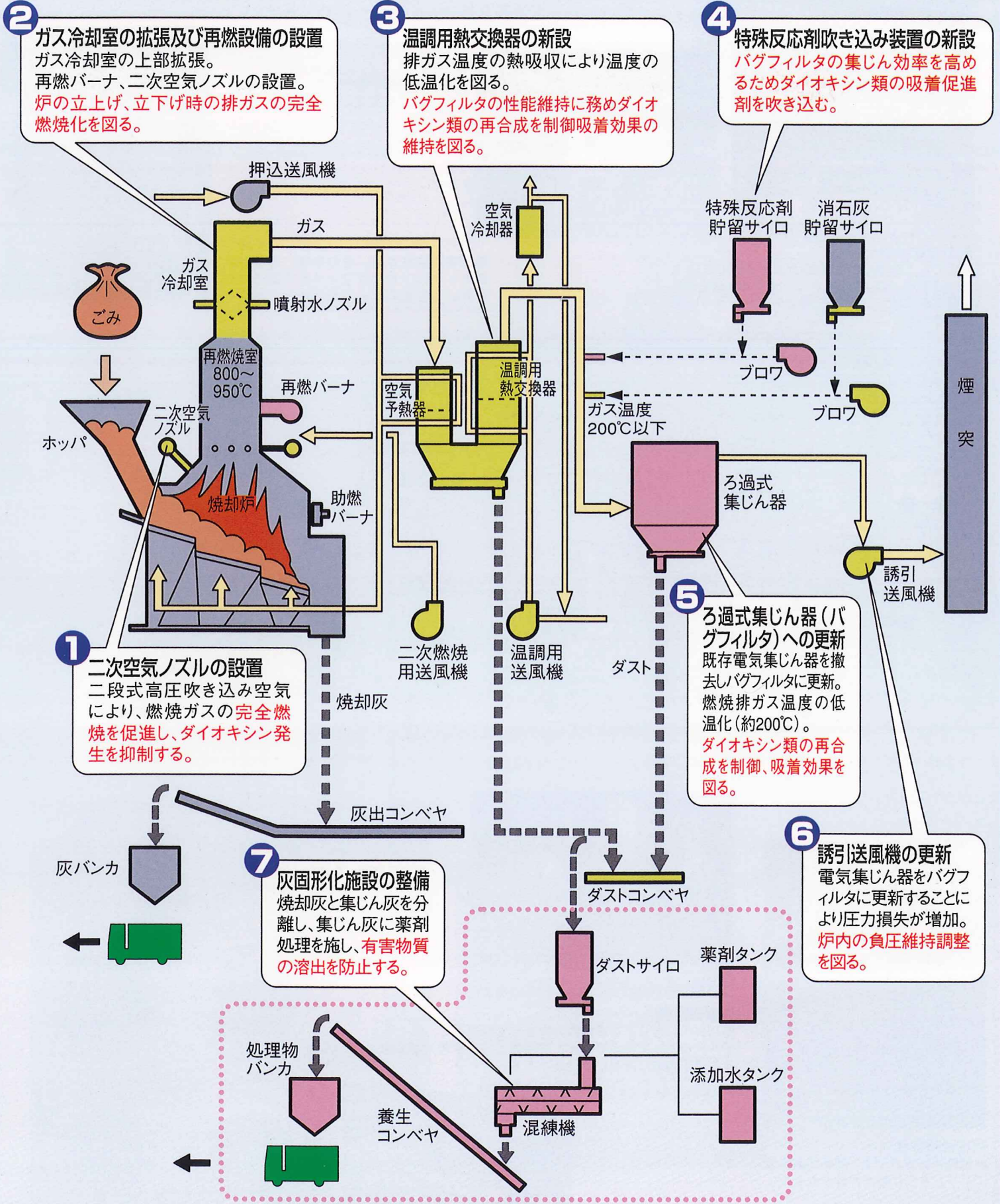
安定化したダストを貯留し、トラックで最終処分場に運ばれ埋立処分されます。



整備後のごみ処理の流れ

既存部分
 新設部分

 更新部分



粗大ごみ処理施設

厚生年金・国民年金積立金還元融資施設

不燃ごみ及び粗大ごみは、まず危険物や資源びんなどを取り除いてから前処理破砕機で粗破砕されます。その後、回転式破砕機、磁選機、粒度選別機、アルミ選別機により、鉄・アルミ・可燃物・不燃物に分けられ、再生工場や各処理施設に送られます。施設内の空気はサイクロンやバグフィルタでちりや有害物質を除去し、大気へ排出します。



前処理破砕機

資源びんや危険物が取り除かれた不燃ごみ及び粗大ごみは、No.1受入れホッパから前処理破砕機に送られます。ここで処理しやすい大きさに粗破砕されます。



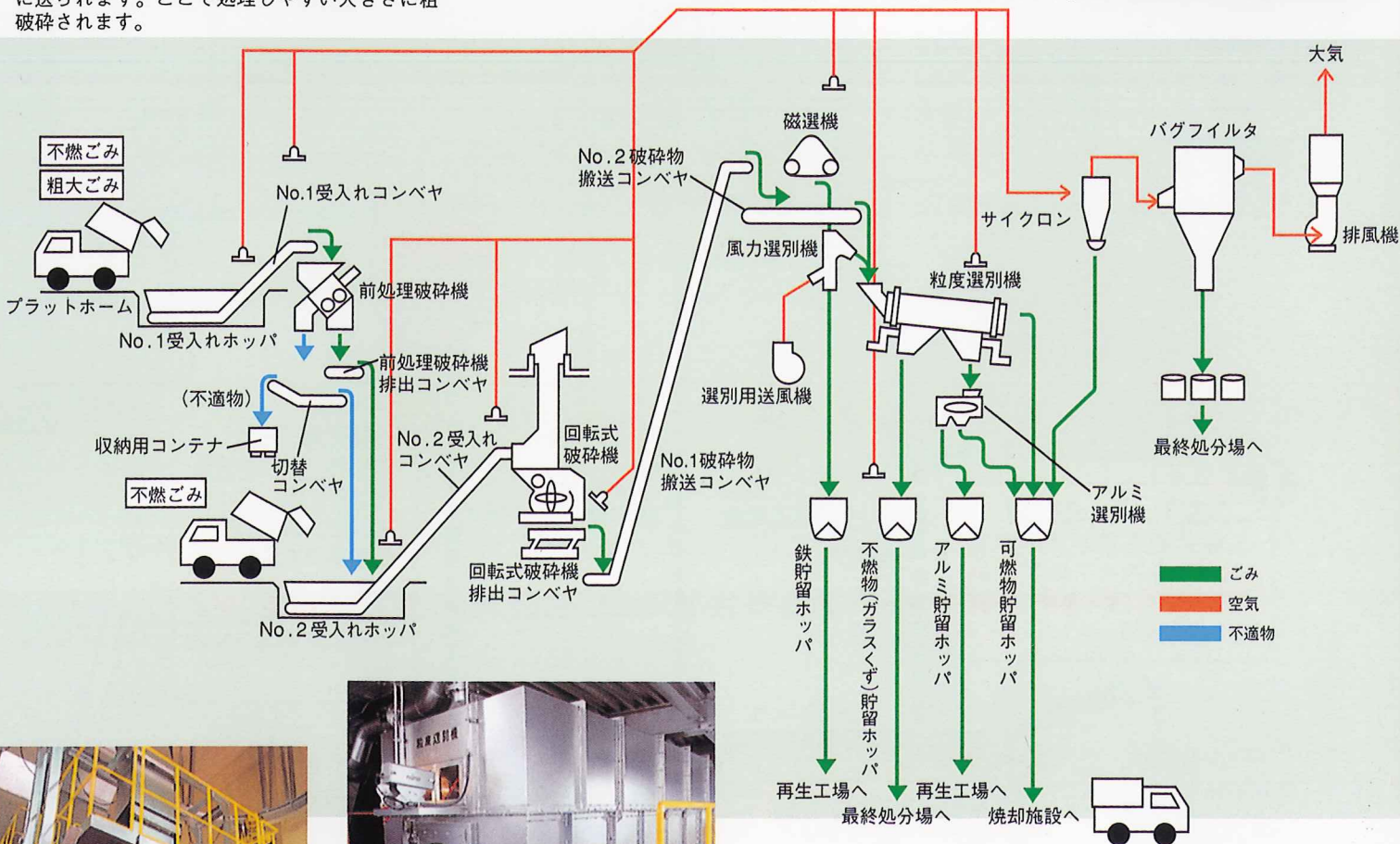
磁選機

回転式破砕機で細くなったごみの中から、磁力を利用して鉄類だけが回収されます。



バグフィルタ

処理中に発生する、ちりや埃、有害物質はサイクロンやバグフィルタで除去され、きれいな空気になって外へ排出されます。



回転式破砕機

前処理されたごみは、回転式破砕機により、さらに細かく砕かれます。



粒度選別機

鉄以外のごみは、ごみの粒の大きさを利用して、紙・プラスチック・アルミを含んだ可燃物と、ガラス・陶磁器などの不燃物にふるい分けされます。



アルミ選別機

アルミを含んだ可燃物は、ここでアルミと可燃物にきっちり分けられます。



鉄



可燃物



不燃物



アルミ

処理後のごみ

ごみはこのようにきちんと分別処理されます。

限りある資源はみんなで守る

資源ごみ

資源ごみとは、人が飲んだり食べたりできるものが入っていたアルミ缶・スチール缶・ビンなどの再利用できるごみのことです。これらはきちんと分別回収され、クリーンセンターのストックヤードに運ばれます。その後それぞれの再生工場へ運ばれ、新たな製品へと生まれ変わります。



物を大切に作る心を育てる

リサイクルセンター

粗大ごみとして捨てられるものの中には、まだまだ充分利用できるものがたくさんあります。これらを選び、整備・修理し再利用の推進を図るところがリサイクルセンターです。手直しされた品物は、毎月行われる入札によって引き取られ、有効に利用されています。

(家電リサイクル法対象品目については、取扱っていません。)



処理したごみを埋め立てる

最終処分場

焼却処分された焼却灰やガレキ類、不燃物(ガラス、陶器類)はこの管理型最終処分場で埋立処分されます。埋立処分場は、水密性アスファルト舗装とアスファルト含浸シートによる二重構造や漏水検知システムを備えた漏水防止対策が施されています。また、埋立処分場からの浸出水は、最新の設備を整えた浸出水処理施設にて放流基準に適合するよう処理されます。



